

## 人を救い防災に挑む

### 消防士たちの戦い(2)

鯖江消防署の管内で昨年は、22件の火災が発生し、損害額は1億2千万円を超えました。

消防署の活動は、防災から人命救助など幅広く、**災害機器の配置**は消防ポンプ車36台を始め、化学車2台、水槽車1台、救助工作車1台、高規格救急車4台など合わせて71台を備えています。

中でも40メートルの高さまで上がるはしご付きポンプ車は、夏休みには子どもたちの搭乗体験で人気を呼んでいます。



子どもたちの搭乗体験

救助機器は、油圧切断や溶断機、チェーンソーなどの切断器具、重量物を排除する油圧ジャッキ、空気呼吸器や水難救助用のボート、救命胴衣も備えています。

**救命は時間との戦い**です。危機を救うには、素早い**現場での応急処置**が明暗を分けます。

心臓停止のときの電気ショック、心臓マッサージ、気道の確保、点滴など、これまでは医師の分野を、今は**救急救命士**も担当します。

救命効果をあげるには、現場にいかわせる人の**応急処置**や、**市民の気転**と素早い手当も重要で、緊急時の**電話指導**も大事です。お雑煮がのどに引っ掛かり、「前かがみにさせて背中を叩いてください」との署員のアドバイスで、急場を救った例もあります。

**地域の消防団の活動**は、実に大きな支えとなっています。市内には13の分団があり、その総員200人、約6割が45歳未満という男盛り。現地の事情に詳しくひと目でパツと対応を判断できます。幹部は無線で情報を傍受し、非常事態に備え招集体制をとっています。

今後に向けて団員の確保と、勤務先の協力が求められています。